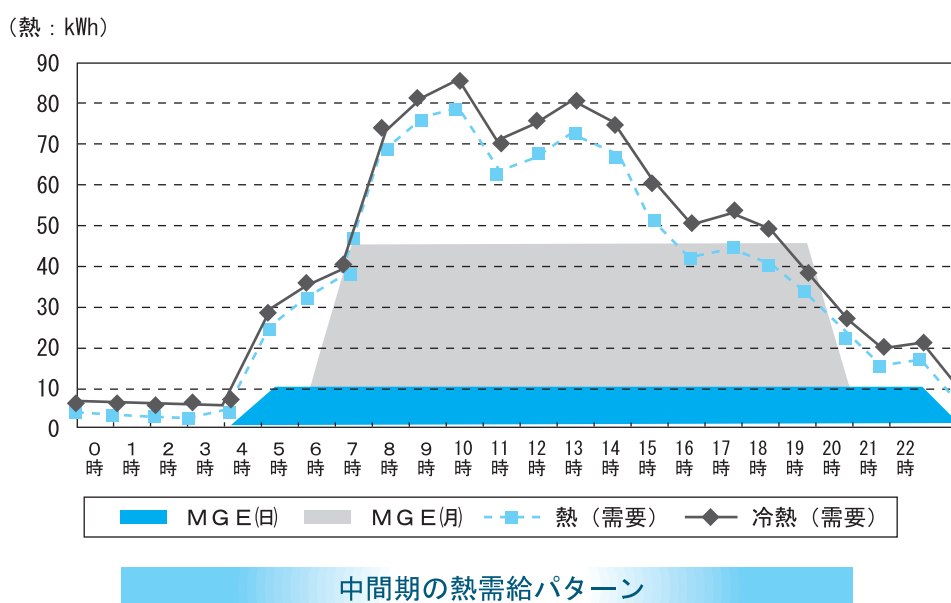


行った場合、システムを極力長く運転させながら、排熱を有効活用することが可能になる。

[コージェネレーションシステム]
 定格出力：①5kW+②20kW
 発電効率：①29.0%（総合効率：85.0%）、②27.0%（総合効率：76.0%）

上記のような機材を導入した場合、最も熱需要の少ない中間期におけるコージェネレーションシステムは下記のような運転が可能になると想定される。



なお、夏期と冬期については熱需要も大きいため、廃熱を利用する時間をより長くできる。しかし、このシーズンでは逆に電力需要が小さくなるため、こちらの方に合わせた運転をすることを想定している。

例えば、バッテリーやマイクロキャパシタなどを組み合わせて蓄電しておき、時間差で電気を自家消費分にまわしたり、余剰電力を売電することなども考えられるが、ここでは勘案していない。